

# 第 10 回木曾川水系流域委員会 議事要旨

日 時：平成 19 年 11 月 28 日（木）13:30～16:15

場 所：メルパルク名古屋 2F 瑞雲西の間

## 1. 開会

## 2. 挨拶（中部地方整備局河川部長）

## 3. 委員長挨拶

## 4. 議事

### (1) 整備計画策定の進め方について

### (2) 木曾川水系河川整備計画（原案）

主に次のような意見をいただきました。

- ・ 委員会やふれあい懇談会からの意見は、最終的にどう反映されたのか、もう少しわかりやすい資料にすること。
- ・ 異常渇水時は徳山ダムから補給するとあるが、ダムそのものが干上がった場合についての補足がいるのではないのか。
- ・ 気候変動や渇水については、地域性をどう見るかなど学会でも議論の余地がある状況である。
- ・ 堤外民地については、堤外地の環境面の問題を含めて、現状と課題に記載する必要がある。
- ・ 渇水時には、慣行水利権をどのように許可水利権へ移行するのか、もう少し具体的に表現できないか。
- ・ P3-23 の「水利用の合理化」で「・・・維持流量の一部を回復する。」とあるが、必然的にこうなるという意味の「する」なのか、意志としてさせるという意味の「する」なのかどちらか。原案全体で記載されている「する」、「させる」等の語尾は、全体のトーンを整理した方がわかりやすい。
- ・ 基本方針やこれまでの議論について、整備計画の中では書けないと思うが、どこを見れば書いてあるのか分かるよう、資料一覧として添付できないのか。また、資料閲覧をWeb上で工夫してみてはどうか。
- ・ 第1章の前に、全体の方針のような前文があっても良いのではないのか。
- ・ 誰が見てもわかるように、専門用語には解説が必要である。
- ・ 骨子、要旨、全文という 3 段階に分けた形にすれば、理解されやすいのではないのか。
- ・ 事業を展開していく中で、今どこまでできたのか、近々この程度までいく等の情報を提供できるよう考えてほしい。
- ・ 地震対策は、今後、調査・設計をしていくことを、付記しておいたほうがよい。
- ・ 整備計画自体は総じて妥当なものになっているが、遊水地については、もう少し平地を助けるような、最新の技術的な動向も加え、今後検討していただけると感じて

いる。

- ・ 一般の方も理解しやすい様に、わかりやすい表現の書き方に努めていただきたい。
- ・ 「流域の保水・遊水機能を適切に確保することを奨励」は、治水に限らず利水、環境にも関わる内容なので、全体に関わる箇所に記載したほうがよい。
- ・ 他の流域とも総合的な協力関係を考えていくべきである。
- ・ 文章はわかりやすく簡潔にしていいただき、日本の風土に適した、日本語らしい文章表現にしていいただきたい。
- ・ 議論を尽くして決める多数少数決の結果であればすばらしいと感じる。
- ・ 時代の情勢や、様々な状況変化があるため、将来の責任を担保するためにも撤退の余地を残せるようなものがあればと感じる。
- ・ 水供給側の論理が先行するが、これからの行政の進め方として、ユーザー側からの論理等があればいいと感じる。
- ・ 皆で決めると誰も責任をとらないことにつながるので、責任の所在を明確化して進めていいただきたい。
- ・ 木曾三川の歴史、特徴を踏まえ、課題に対しての答えが、比較的明確に書かれている。
- ・ P3-18 の内水対策で「土地利用規制・・・と連携・調整して行う」の表現は、「土地利用規制を行う」という意思と捉えてよいのか。
- ・ P3-33 の「汽水域、緩流域の水質保全」で、モニタリングは、メカニズムを把握するためのものではなく、現象そのものを把握するための調査なので、表現を修正すること。
- ・ P3-44「ダム貯水池の維持管理」の文言を「選択取水設備、汚濁防止フェンス、曝気循環設備等を設置し、その適切な運用を図ることにより」と修正してもらった方がいい。
- ・ P3-46「適正な流水管理や水利用」で「導水先の河川環境との関係に配慮し行う」とあるが、何の関係に配慮するのかが不明確なので、もう少し具体的な表現にしていいただきたい。
- ・ 着手予定があるのであれば、明記した方が理解されやすい。
- ・ 事業については、齟齬や誤解が生じないような出し方の工夫を入念にして頂きたい。
- ・ 皆で流域を考えることが最大の問題で、色々なところで意見を集められたり、どうしたいのかという議論をして頂いたのは、非常によかった。
- ・ 世界では、水が社会のベースとなるということで、こういう意見の積み重ねの中で、将来を見越した形にもっていってもらえることを期待する。
- ・ 災害が減らない傾向にある要因として、生活の変化と絡んだ災害だということを考えると、ダムなどのハード施設での方針では難しいと思う。
- ・ 5年、10年で再評価して修正していくということを、本文に記載してもよいのではないのか。
- ・ どれを優先するのか具体的には書けなくても、必ず優先順位をつけてやるということの根拠を、もう少し記載して欲しい。
- ・ 木曾三川の中で利水は大きな問題で、合理化の一言で片付けないで、問題点について、もう少し踏み込んでよかったのではないのかという印象をもっている。
- ・ 揖斐川、長良川、木曾川とそれぞれ特色のある水なので、導水路事業が始まって生態系に対し十分な調査を実施し、異変が生じれば導水を止めるというぐらいの

努力をお願いしたい。

- ・ 内水排除にかかわる地区内の地盤沈下、地震による地盤沈下の問題については、どこかでふれておく必要がある。
- ・ ふれあい懇談会では治水の意見が一番多く、流域住民は危機を感じている。
- ・ 立派なビジョンを作っても実行しないとなにもならないので、意地と思想と信念をもって実行していただきたい。
- ・ 並列的に記載しているため、緊急的なもの、簡単にできるものなどのメリハリが無くなっている。何を訴えたいかということも、もう少しメリハリをもって市民に語りかけていくことが良い。
- ・ 30年という長い段階の中を、もう少し段階的に示すことは、難しいことがわかった。
- ・ それぞれ自信があるか問い直して、立派な計画に仕上げしてほしい。
- ・ 流域委員会として、今後、どういうふうに移しているのかを見守るとともに、我々もどう関与したらいいのかということも大きな問題かと思う。

### (3) 今後の予定

主に次のような意見をいただきました。

- ・ 省庁間協議の前に、案がどうなったのか確認する意味で、流域委員会を開催してもらいたい。

## 5. 閉会